

TNVN - HP 「ボランティア日本語教室ガイド」

お問合せ から

I am interested in joining your group as I am looking to improve my Japanese skill. How would I go about joining?

TNVNで発行している冊子「ボランティア日本語教室ガイド2014東京」は日本語を学びたい人たちに都内で活動をしているボランティア日本語教室を紹介しています。

また、TNVNのホームページの「ボランティア日本語教室ガイド」からも都内を中心に活動しているボランティア日本語教室が検索できます。

これらを介して日本語を学びたい人が希望するボランティア日本語教室に「お問合せ」をしています。

日常生活でのコミュニケーション

能力を高めることを目指し、また日本語や日本文化に関心を持つなど、目的や動機は様々ですが、スタートは学ぶための場所探しからです。その場所探しに「お問合せ」が役立っています。

「お問合せ」の状況

今回、2015年4月2日～7月31日の4ヶ月間に寄せられた「お問合せ」をまとめましたので紙面で報告します。

HP掲載教室数：191教室で、問合

せ先教室数は107教室です。

問合せの件数は274件、問合せ人数は162人、毎月約40人が「問合せ」をしています。

内訳は学習希望者134人(英文:47人、日本文:本人56人、配偶者8人、友人等22人、日本人1人)、ボランティア希望20人、問合せ回答等8件です。

問合せ先教室は都内の全地域にわたっていますが、その内問合せ件数の多い上位地域を表1に、問合せ件数の多い上位教室を表2に示します。

〔表-1〕

地域	教室数	件数
渋谷	7	40
港	6	22
杉並	5	21
新宿	9	19
世田谷	6	18
墨田	3	15
板橋	8	13
足立	7	13
江戸川	8	12
練馬	6	2

〔表-2〕

教室	件数	地域	時間帯	曜日
A	22	渋谷	午前、午後	火～土
B	8	杉並	午前、午後、夜	火・木
C	8	墨田	午前	月・水
D	8	港	夜	火
E	8	渋谷	午前	金
F	7	千代田	午前、午後	火・金
G	7	台東	午前	木
H	7	港	午前	土
I	7	世田谷	午前、午後、夜	火

「東京の日本語教育を 考えるつどい 2015」に参加して

「東京の日本語教育を考える会・代表 中山真理子」は、昨年秋から「都立高校在京外国人入試の実態調査」を全都にわたって実施し、596名ものデータを集めました。「大規模調査結果を踏まえ都立高校外国人枠の大幅な拡充を考える」をテーマに、2015年5月24日、東京しごとセンターで「つどい2015」が開催されました。

今春、ネパール人中学生の高校進学を支援しましたが、外国人枠都立高を学力面・通学距離等で断念。今後の高校入試はどうなるかと、「つどい」に参加しました。

講演

大阪府立高校での受け入れ体制と門真なみはや高校での取組

府立門真なみはや高校教諭 大倉安央

特別枠入試を実施している府立高校は6校。入試は、母語または日本語による作文とルビ付き問題による英語と数学で行われます。特別枠6校には、常勤の日本語教員3名が加配されています。中学生対象の多言語進路ガイダンス、高校生への大学進学説明会なども実施されています。

門真なみはや高校では、「外国に繋がる生徒は、日本語ができないのではなく、〇〇語ができる存在」とプラス思考で受け入れています。「自分の生まれ育った国・地域に誇りと自信を持つ」を基本的な考えとして、生徒が自分のことをしっかりしゃべれることを目指しています。

報告1

『実態調査』の結果と行政に求められる改善点

東京の日本語教育を考える会事務局長 関本保孝

- ①外国人特別枠を持つ都立高校は3校しかなく、大阪や近県に比べて大変すくない。
- ②特別枠の倍率は都立高等学校の一般の合格率の倍近くの高さである。
- ③特別枠の受験資格が厳しい。
- ④受験資格があっても受験しなかった生徒は506人中、330名にのぼる。
- ⑤受験しなかった理由は、日本語力・英語力が不足、学力にあった学校がない、希望学科がない、遠くて通学が無理など。
- ⑥全日制への進学は半数以下。(グラフ参照)
- ⑦一般入試合格者の77パーセントは3教科受験者である等を報告、改善点が提言されました。

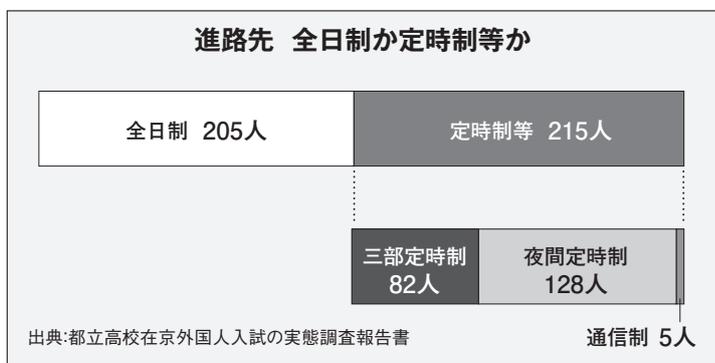
度から受けられない状況になった等が報告されました。

要望書

パネルディスカッションのあと、都教育長・都議会議長あての「都立高校在京外国人枠の拡充に関する要望書」が採択されました。以下は要望書の抜粋です。

- (1)都立高校在京外国人入試対象高校の拡充を。
 - ・最少でも10校の都立高校に在京外国人枠設置。
 - ・都内のどこに住んでいても通学できるように配置。

- ・普通科・商業科・工業科・定時制に設置を。
- ・在京外国人枠を持つ都立高校には、外国人生徒の担当教員の増加を。等



報告2

多文化共生センターでの学習・進学支援

多文化共生センター東京代表・榎木 典子

学齢超過の子どもは増えているが、正式に把握されていない。同センターでは「たぶんかフリースクール」で学齢超過の子供たちを受け入れているが、ここへ辿りつくまでが大変。高校入試では「出願手続き」が煩雑で入試以前の労が多く、勉強に集中できない。定住外国人の子どもの就学支援「虹の架け橋事業」が2015年

- (2)日本語を母語としない生徒の都立高校入試制度の改善を。
 - ・試験実施日、試験内容、入試問題にルビ、特別措置対象者の拡大などについて、具体的な改善点を記載。

この要望を受けて、都教委は「外国人に配慮する」と言っていますが、10月に発表される「都立高校入試要項」がどうか、注目しています。

やさしい日本語・岡田美奈子

多言語電子絵本で 子どもたちの日本語も 母語も育てたい

多言語絵本の会RAINBOW、にほんごの会くれよん(目黒区)

石原 弘子

「わたしのことは、 日本ではひつようない」

これは、フィリピン出身で日本人と結婚している方が言った言葉です。ほかに、日本人の夫から、中国語で育児をしないでくれと言われた方、電車の中で子どもに韓国語で話したら、周りから注視され、電車の中で子どもに話さないようにしているという人もいました。

2000年、小さい子どもを連れて参加できる「にほんごの会くれよん」をつくり、そこでアジア、アフリカからのお母さんたちと、欧米系のお母さんたちの母語使用の違いに気が付きました。母語を伝えるかどうかは、個人の問題ですが、社会が応援するべきじゃないだろうか、母親自身が自分の言語を否定する社会でいいのだろうか、と思いました。

図書館や小学校で 日本語と外国語でよみきかせ

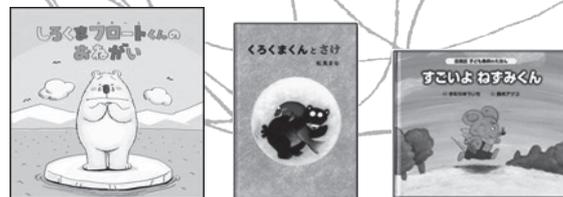
2005年暮、目黒区立八雲中央図書館に、お話し会を多言語でさせてほしいと頼みにきました。図書館としては、多文化サービスが課題だったようです。2006年2月から毎月1回15分間だけ、いろいろな国の人と、外国語と日本語の交互読みという「多言語よみきかせ」を始めました。

2009年からは区内の小学校の希望校で、外国人との交流授業を行い、多言語での絵本の読み聞かせを行ってきています。この数年は都内の小学校に行っています。

多言語電子絵本

2009年3月、「目黒区子ども条例のえほん すごいよ

ねずみんくん」が、目黒区から刊行されました。私は、この絵本を見た途端、これをいろいろな言葉で読めるようにしたいと思いました。まず、英、中、韓、インドネシア語に翻訳をし、小冊子にして、図書



館で貸し出されるようお願いをしました。音も聞きたいと思い、音訳もしました。文字と音が同期していくマルチメディアデージー形式の電子絵本もつくりました。

今年末には、「ねずみくん」は12言語で読み聞きできます。ほかに「布のえほん おはようおやすみ」15言語、「しろくまフロートくんのおねがい」8言語、「くろくまくとさけ」8言語、「布のえほん いくつ?」18言語が、デージーで読み聞きできます。そのうち35作品が、現在、日本障害者リハビリテーション協会のHP、デージーファクトリからダウンロードできます。<http://www.normanet.ne.jp/services/download/daisy.html>

そして、同時に、YouTubeで公開の予定です。RAINBOWで検索してみてください。

どの子にも良い本を

絵本は、子どもの心を育て、言葉を育てるために不可欠です。

日本では、「どの子にも良い本を」と読書推進運動が盛んで、毎年おびただしい数の絵本が出版されていますが、「どの子にも」のなかに、外国語の絵本を必要としている子どもは含まれていません。図書館でも書店でも、英語以外の絵本を見ることは非常に少ないです。

東京では、外国人の出産が増えているので、出生率が上がっています。日本語以外の絵本が必要な子どもが増えているのです。その子どもたちに、各国の方が翻訳、音訳に協力すれば、電子絵本という形で届けることができます。小さいころから、日本語も母語も育てられる環境をつくってこそ、「どの子にも良い本を」という社会になると思います。

日本人の子どもにとっても、乳幼児のころから、異言語に触れ、慣れていくことは、違いを受け入れる心の土壌をつくっていくことになってと思っています。

始まったばかりの事業ですが、日本語クラスに参加する外国の方にお知らせくださるとうれしいです。

TEL:090-9973-8260 nihongo_crayons@yahoo.co.jp

「響き合い」を 続けていこう

日本語教師 金子 広幸

前号で、ボランティアが「良き伴走者」になるためにはどうしたらいいかということを書きました。今号では「継続を維持すること」について考えてみます。

まず何と言っても、無理のないペースをつかむこと。これはボランティアの皆さんには大切なことです。我々教師には「伝家の宝刀」があります。「成績」です。出席や努力が足りなかったら、成績で縛り、「継続維持」をしているのです。…何と非人間的なことでしょう！…。でも、ボランティアの皆さんにはそれはありませんね。「またこの人に会いたい、話したい」と学習者に思ってもらうことが唯一の「伝家の宝刀」です。

いつも「先生」から「学生」への一方通行だと「学生」も飽きて来ますし、「先生」のほうも枯渇してきます。そんなとき、交流や活動の方法を振り返り、「響き合っているか」考えてみません

か。この相互に響き合うことが継続維持の秘訣ではないかと私は考えています。

1600年近く前に漢字を大陸からもらった日本。最初は、金石文という形で触れ、文明の利器としての印鑑や鏡などで見たかもしれませんね。当時はC D付きの本なんてありませんから、漢字を持って大陸から渡来した人から、読み方や意味について習った時代があったことでしょう。

ここには、「文字を知らない未開の東の島々の人々に、進んだ文明を持つ渡来人が教えた」というイメージがあるかもしれませんが、よく考えてみると、そんなに単純な構造ではありません。まず、そのどの場面にも、「伝えるほう」と「学ぶほう」がいて、そのどちらも、いろいろ工夫・苦心して伝え合っていたことが窺われます。

例えば…。

「里」という漢字には「人が集まって生活している所」という意味があるわけですが、渡来人たちは、この漢字を「り」などと読んでいたでしょう。一方、「学ぶほう」は「いろいろ話を聞いてみると、この「り」と読む「里」の漢字は、この島の言葉では「さと」という言葉に当たるらしい」と類推を重ねていったのではないかと思います。ここには「伝えるほう」だけでなく、「学ぶほう」にも同じく歩み寄りがあり、近づこうとする力が働いていま

す。そして、お互いの利害を超えて、深い信頼関係があったことと思います。

私の日本語クラスでは、よくインタビューなどのコミュニケーション活動をしています。例えば「AとBとどちらが好きですか」という質問をするなら、「本当に周囲の人に聞きたい質問を」と促し、多めにインタビュー、その結果を円グラフにして、数行のコメントも添えてもらったりしています。完成した円グラフはクラスの中で展示し、さらにそれについて意見を言い合ったりするのです。これは初級前半のレベルでもできます。

やがて、学習者の日本滞在生活も軌道に乗って、何かの目的を明確に持てたら、別の社会参加、例えば就職したりするかもしれません。また、日本語の試験を受けたり、日本語学校のクラスに入ったりするかもしれません。また、地域社会に参加して自分の居場所をさらに探すかもしれません。…その時は「また必要になったら来てね」と言える関係がいいですね。

どこに行っても、その学習者は、双方で作り上げた思い出を持ち続けてくれることでしょう。ボランティアの本領発揮!ですね。とにかく信頼し合えて、お互い学び合い、響き合いができると、最高ですね。

■「この文型を使って何が話せるか」、個々の学習者に寄り添って考える、

杉並でくらす外国人のための日本語教室 (杉並区)

にはんご学習すぎなみの会代表／天坊 千明

年3期、1期21回レベル別5クラス編成。この教室から生まれた『いっぽ にはんご さんぽ 初級1・2』(上の2クラスは手作り教材)を用いて、生活に必要な初級日本語習得の支援をしています。

私たちの宝物は、支援者と学習者が、自分の文脈で話すたくさん例文です。以下、各クラスの一コマをご紹介します。

●Aクラス／ネパール女性、ほめ言葉は「カワイイ」だけだったのに、「きれい」「すてき」と語彙が増え、拙いながらも「よい

人間関係を保つ」日本語力がついてきました。

●Bクラス／不動産物件探しの場面。「～です。でも～です」と遠近・便利・新古・広狭・明暗を評価。でもみんなの関心事は耐震物件で「強い」が重要となりました。上のクラスでも「～ように～しています」の文を作ってもらって、日本人以上に地震対策していることがわかります。

●Cクラス／期末の5クラス合同学習会でコロンビア人が男女の踊りを披露し解説。「いくら～でも～ません」・「男は女にいくら愛していると言っても、女は応えません」。

●Dクラス／「～し～し」では、英語教師のオーストラリア人夫妻、「妻は親切だし、きれいだし、結婚したいと思いました」「夫はおもしろいし、頭がいいし、親切だし…」



と一同大いにあてられっぱなしでした。

●Eクラス／「使役形＋てくれます」・求職中のアメリカ人「(日本人)妻は週1回私を居酒屋に行かせてくれます」、タイ人「両親は私を日本人と結婚させてくれました」、ワーキングホリデーの台湾人「日本に来たとき友人は私に自分の部屋で生活させてくれました」、中国人「保育園の先生は息子に日本語と挨拶の仕方を教えてくれました。一生忘れません」と、感謝を伝えることができました。これからも、オンリーワンの文を大切に積みあげていきたいと思っています。

会員団体紹介

Nice to Meet You

介護士研修生その後

ビバ日本語教室／林川 玲子

特別養護老人ホーム白金の森の介護福祉士候補者を三人受け入れて1年半を越えました。(No.85参照)そして、今年からは更に二人のインドネシア研修生を受け入れました。イスラム教三人、キリスト教とヒンズー教各一人ずつと、宗教は違いますが、五人とも明るくて朗らかで可愛くておしゃれで、夢や悩みは日本女性と変わらず、その上、ひと昔前の日本女性を思わせる素朴さもあって、近々介護施設のお世話になるかもしれない身にとっては、彼女たちに介護をしてもらいたいと思うこの頃です。

1年目の二人は実習が始まって、いろいろな日本語にふれるようになり、ときどき素朴な疑問が生まれます。「緑内障は失明するおそれがある」を説明していた時、それなら利用者さんから時々言われる「おそれいります」はどんな意味かとか、施設でよく聞く「まんがいち」はマンガが一番という意味かとか…。また、こちらが教えてもらうこともあります。介護用語には一般の日本人になじみのない言葉が結構ありますが、「着患脱健」は一般人にとっても役に立つ言葉です。「着せる時

は麻痺のある側から、脱がせる時は健康な側から」という意味です。こ



ティティさんの結婚式

の言葉を知らなくても実際には実行しています。

2年目に入った三人は、専門的な勉強が一段と難しくなりましたが、施設での実習ではかなり頼りにされてきているようです。ラマダンの時の夜勤では、食事を取り損ねて、水だけでがんばったということで、「体がぐたくたになった」そうです。

インドネシアでは結婚の平均年齢が低いこともあって、二十代の彼女たちの一番の憧れは結婚です。それぞれ「彼」がいるらしいのですが、この7月に2年目のティティさんがインドネシアで結婚しました。インドネシアで看護師をする彼とは長い別居結婚が始まりました。けれど、ティティさんは幸せいっぱい、これで落ち着いて介護士を目指せるようになったと思います。

学習者の声

ベトナム語の歴史紹介

ポーゴックトン／ベトナム
本所賀川記念館日本語教室（墨田区）



と交ぜて表記する事が行われていました。しかし、それは19世紀から、フランスの植民地時代に、使用頻度が次第に減りました。1945年のベトナム民主共和国成立により、ベトナムの国字として漢字に代わり、クオック・グーという文字が正式に採択されたことで、漢字は使わなくなりました。

現在では日常生活で漢字が見られるのはテト（旧正月）や中秋節などの伝統行事や仏事、結婚式などしかないです。漢字が理解できる人も、高齢者の一部や、国文学や歴史学などの研究者、書道家や仏僧、日本語及び中国語の学習者などに限られます。

私達の世代は漢字の教育を受けていないので、修得に大変苦労していますが、正しく使いたいので、毎日少しずつ勉強しています。

私は自宅近くの本所賀川記念館日本語教室に通っているベトナム人のトンです。約一年半前に、たまたま通りかかった時にこの日本語教室を知りました。

このスタッフの方々は丁寧に熱心に日本語を教えて下さる他に、人生の大先輩として、色々貴重な経験を伝授して頂いています。日本での生活は約4年半になりますが、日本語はまだ下手です。特に漢字は日本語の中で一番難しいと思います。同じ言葉でも複数の漢字があり、いつもどの漢字を選んだら正しいか迷い、苦労しています。

教室では漢字圏の中国人学習者が最も多いです。彼らはベトナムで漢字が使われていると誤解していましたので、この機会にベトナム語の歴史を簡単にご紹介します。

実は、ベトナムは昔から長く中国文明の影響を受けていた為、漢字が一般的に使われました。対応する漢字がない言葉は、漢字を応用したベトナム独自の文字のチュノムを作り、漢字

ボランティアの声

『地元で地道に何かできないか』
今でもその精神は
受け継がれています

嶋田 信子

本所賀川記念館日本語教室（墨田区）

スカイツリーがすっと聳え立つすぐ傍に私たちの教室はあります。5階建ての建物は教会と保育園と児童館の複合施設になっています。死者・行方不明者10万5千人、被災家屋10万5千戸という大災害を引き起こした関東大震災（マグニチュード7.9）で、消失区域95%、死亡・行方不明5万4千人を出した本所地区の救済に駆けつけた賀川豊彦を中心に、救済活動が繰り広げられたこの地にその歴史を担ったこの施設が建てられたと聞いています。

賀川豊彦記念館発行の冊子に掲載の「日本語教室の事始」によれば、『1980年代から増え始めた3Kに携わる外国人労働者の不法滞在等が社会問題になったことから、地元で地道に何かできないか』と考えた牧師さんが日本語を十分に知らない外国人に日本語を教える教室を作ろうと考えて、この教室は生まれたそうです。予算も何もない中、作られたそうですが、今でもその精神は受け継がれ、手弁当的な活動です。

参加してから間がない私には毎日が

驚きに満ちています。「来るものは拒まず、去る者は追わず」の教室ですから、日本に着いたばかりという豪の青年と勉強したり、ワーキングホリデーで来日中の台湾女性とN2合格を目差したり、就職先のホテルの敬語で苦しむ女性と勉強したり、様々です。土曜日の夜間の二時間、突然の来訪者に悪戦苦闘しますが、そんな時は、たいてい学習者が授業を盛り立てて助けてくれます。日本語で十分表現できなくても、皆さんの興味や関心は多岐にわたっています。歴史、経済、年金などを含む日本事情、エンターテイメントに関する情報、それらを丁寧になるべく分かりやすく説明しているグループもありますが、来日してから日が浅い学習者さんたちがなぜ理解できるのか不思議に思って尋ねてみたら、「大体母国語で読み聞かしているので、類推しながら理解につなげている」との答えが返ってきました。感心しました。一期一会を大事にしながら私も楽しませてもらっています。



◎2015年度TNVN運営委員会（第1回）開催しました。

- 日時／2015年7月10日（金）18:00～20:00 ■場所／東京ボランティア市民活動センター ロビー
- 参加者／運営委員:6名 TNVNスタッフ:8名

議題:1／TNVNの近況・活動状況

“[わかる日本語]作成のための手引き”2015年中には発行することで作業中です。

議題:2／最近の情報

①東京都外国人支援団体合同連絡会から

23区は6月19日、多摩地区は6月3日に開催され、6月19日にTNVNスタッフ4名が参加しました。

テーマは“多文化共生社会推進における各団体間の連携について”でブロック別討議が行われ、その様子を説明しました。

TNVN運営委員会の出席メンバーに合同連絡会の存在・ブロックを知らない人が多く、東京都が更に多くの支援団体へ周知する必要を感じました。

②東京都の多文化共生推進に関する情報

東京都は2020年オリンピック開催を契機に多文化共生社会に向けた基本的な考え方や施策の方向性を示した「多文化共生推進指針」（仮称）を作成する為にアンケートの実施と多文化共生推進検討委員会の発足がされました。

議題:3／出席者から各地の活動状況（単独の活動・自治体等との連携事業等）

- ・八王子市は多文化共生推進プラン10カ年計画が作成された。地域の中（町内会など）での日常的な交流をやらないと災害時に外国人が情報弱者になってしまう。

- ・10ブロックでは会議を開くことにより最近顔の見える関係が出来てきた。それにより共同作業がなされ、日本語教室マップの作成や講習会の開催、防災訓練への参加などでネットワークが出来ています。

国際友好クラブ（ボランティア団体の集まり）と共に多文化共生に向けて「生活便利帳」3か国版（5年前発行したが古くなった）に加え「やさしい日本語」版を出す事になったが作成が簡単で無く大変な作業です。

- ・足立区では多文化共生施策の実施・実績について多数の実施項目について点数表を作り達成度を示しています。

- ・自治体は多文化共生社会を推進していく中で日本語ボランティア活動をどの様な位置づけで見ているかを知りたい。

- ・その他関連する意見が多く出されました。

議題:4／第1回情報・意見交換会の開催について

開催日時、場所、テーマを決めて会員メンバーにお知らせします。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口 B2b）飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えています。ご意見もお待ちしております。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸 1-1

東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

（呼出：金曜日活動時間帯のみ）

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆新会員紹介

正会員

TIC田無日本語教室（西東京市）

日本語MUSUBI（渋谷区）

大泉学園さくら日本語教室（練馬区）

◆会員数（2015年月15日現在）

正会員 86団体

個人協力会員 16名

団体協力会員 1団体

賛助会員 4団体

◆編集／大木千冬、岡田美奈子、小川伶子、梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子

◆レイアウト／鶴田 環恵

◎2015年度TNVN運営委員の追加

小野 美恵子さん（グッドナイト日本語教室）にお願いしました。

column

実るほど頭が下がる稲穂かな

小学校を卒業したとき担任の先生から送られた言葉です。皆さんも思い出に残る言葉を持っている事とおもいます。すでに60年以上も前のことが今も脳裏に浮かんできます。

この言葉は“人格者ほど謙虚であれ”との意味で使われています。

昨今の社会では人と人の繋がりが疎遠になり掛かっています。この言葉は個人に対してよく教訓として言われていますが、この社会の各分野で活躍するそのリーダーにこそ当てはまるのではと感じます。

稲穂は日本の通貨「五円」硬貨の表デザインに浮き彫りされ、農産・水産・工業を表しているとのことです。

越後地方へ旅した時、弥彦山のドライブウェイで目に飛び込んできたのは秋の収穫を迎えた新潟の黄金色の絨毯です。収穫される

米の美味しさ、この風味は絶品の一言です。稲を取り巻く自然の原風景は日本の生活そのものと実感します。

政治優先、経済優先の世の中で改めて『実るほど頭を垂れる稲穂かな』の思いを生かして貰いたい。

(k. k.)